

博物館だより



No.131

平成29年10月1日

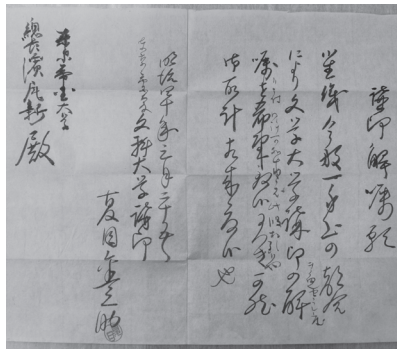
みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館新展示・ここに注目!

小宮豊隆資料

「漱石コレクション」Vol.18

今年(平成29年)は夏目漱石先生誕生150年。没後100年の昨年に続き、文豪ゆかりの事物は注目の的。博物館所蔵の「小宮豊隆資料」もその一つです。漱石の愛弟子で町出身の文芸評論家が愛蔵した、漱石ゆかりの逸品をご紹介します。



▲宛先を帝大総長にして作成された「講師解囑願」

●漱石自筆解囑願(明治40年3月)

漱石は先に紹介した池辺三山の説得を受け入れ、朝日新聞へ入社して専属作家となることを決意しました。これに伴う身辺整理のため、漱石は勤務先の東京帝国大学へ辞表(解囑願)を提出します。その際の現物とみられるものがこれですが、型通りの文書なのに、文豪らしからぬ修正のあるところが注目されます。

修正前の文言が残っているのを見てみると、どうも「辞めたいから手続してくれ」という趣旨の文言を「免職をお命じ下さい」という選った表現へ修正しています。これは提出先からクレームがついたか、漱石がこの文言は国費留学した身としては尊大でマズイかも」と「忬度」したのかもしれない、捺印しながら、結局は提出を見送った草稿として「幻の願書」となっています。

第5回みやこ町古墳まつり

「文化のみやこ」づくり事業 日時・10月22日(日) 13時~15時30分 於・みやこ町総合文化センター

子どもたちによる 絵画・作文コンクールとその表彰式。当日は会場に入賞作品を掲示します!



平成23、24年度に行われたみやこ町古墳フォーラムの成果をもとに始まった「古墳まつり」。古墳をはじめとする町内の豊かな歴史・文化遺産を活かした特色あるまちづくり・学びの場づくりを楽しみながら進めてゆく「学びの祭典」です。様々な「楽習」メニューが用意されています。みなさんそれぞれが関心を持つ分野やイベントにお気軽に参加ください!

10月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】 10月7日(土) 9時30分
- 【みやこ学講座】 10月9日(月) 13時30分
- 【古文書講座】 10月14日(土) 13時30分
- 【古典かな講座】 10月21日(土) 9時30分

※日程等変更となる場合があります。 ※見学会等は別途ご案内します。

古墳の「みやこ」を歩こう!

歴史たんけんウォーク参加者募集
勝山地区はみやこ町随一の古墳密集地です。そんな勝山の古墳の魅力を再発見するたんけんウォークを左記要領で行います。心算してご参加ください!
日時・10月22日(日) 9時~11時
場所・みやこ町役場(発着)~勝山古墳群(橋塚・綾塚・庄屋塚古墳)

定員参加費・30名先着順 200円
※詳細は博物館へお問い合わせください。

当日の主な楽習メニュー

- 歴史たんけんウォーク(右参照)
- 記念芸能上演(13時10分)
- 国指定重要無形民俗文化財「豊前神楽」上伊良原神楽保存会 歴史文化カレッジ講演会 (13時30分~14時50分)

「豊前神楽」

「その魅力見どころ 謎解き(仮題)」
講師・吉留 徹 氏(土井ヶ浜遺跡 人類学ミュージアム副館長)

- 絵画・作文コンクール
- 掲示(12時半~) 表彰(15時~)
- 入賞作掲示及び表彰式

※内容の部が変更される場合があります。 ※参加申込・お問合せは博物館(0930-466600)へ

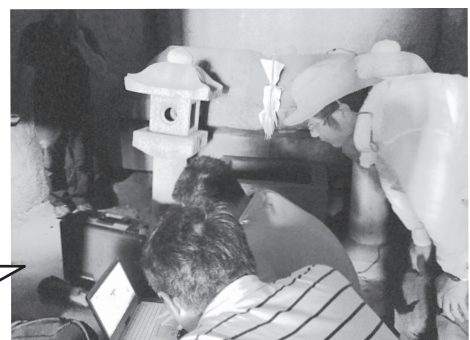
8月の業務日誌から

8月20日(日)、夏休みワークショップ「鉱物標本を作ろう!」を行いました。学芸員の説明を聞きながら、実際に自分の手で標本を作る体験は、夏休みのよい思い出になったのではないのでしょうか。

8月29日(火)、別府大学から古墳の石室の彩色の有無を調べる調査団が訪れました。対象を傷つけることなく石材に含まれる色素を抽出できる、スグレモノの機材による調査が行われました。



▲学芸員の解説を聞きながらの鉱物標本づくりにチャレンジ



▲成果はすぐに整理分析が可能だそうで、結果が楽しみです

みやこの歴史発見伝 102

町指定史跡 庄屋塚古墳

— みやこ町で最大の規模を誇る「前方後円墳」 —

前方後円墳とは？

古墳には様々な形があります。例えば、綾塚古墳のような円墳、橋塚古墳や甲塚古墳のように上から見た形が四角形をした方墳、そして古墳時代を代表する鍵穴のような形をした前方後円墳などがあります。なかでも前方後円墳はほかの形の古墳に比べると数が少なく、ごく限られ



▲上空から見た現在の庄屋塚古墳(画面上が北西)

た権力者のみが造ることを許された墓と考えられており、三世紀から七世紀にかけて日本各地に造られました。

当時の政治の中心地、奈良・大阪周辺では世界一の規模を誇る大仙古墳(伝仁徳天皇陵)のような大型の前方後円墳が数多く造られ、その多くは陵墓指定地と言います。天皇や皇族の墓ではないかとされています。

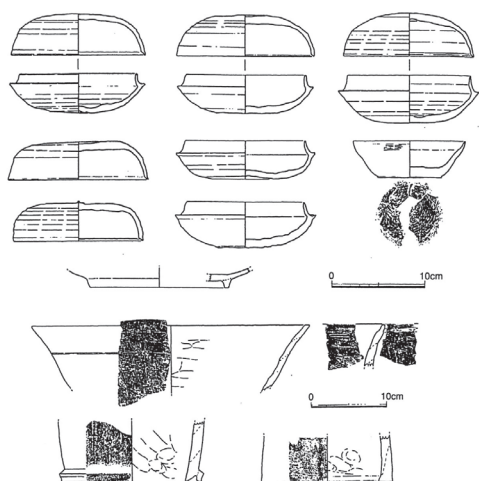
みやこ町でも、古墳の密集地として知られる勝山地区にも寺田川古墳(勝山黒田)、箕田丸山古墳(勝山箕田)、扇八幡古墳(勝山箕田)、そして、庄屋塚古墳(勝山黒田)の四つの前方後円墳があります。今回は、その中の一つで、みやこ町最大の規模を誇る庄屋塚古墳についてご紹介いたします。

庄屋塚古墳の特色ある姿

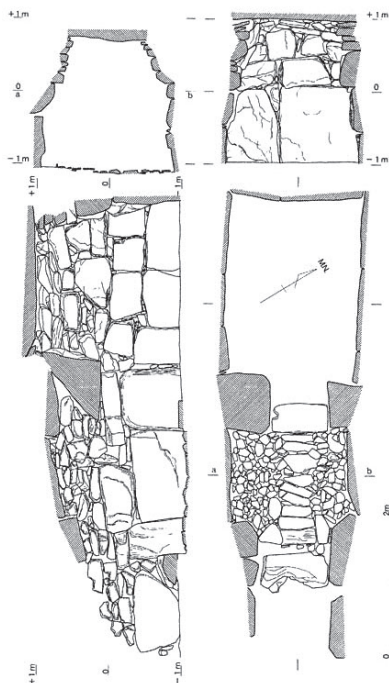
庄屋塚古墳は六世紀中頃に造られた前方後円墳です。下黒田の旧国道沿いに位置し、二段に盛られた墳丘上に立つと、北西には観音山を望み、古墳周囲の平野を広く見渡すことができます。古墳に葬られた人物もこの風景やこの地域に暮らす人々の生活を見守っていたのではないかと思わせる「古ぶり」「まほろば」な景色です。

墳丘の全長は現在八十一メートルですが、周囲は宅地化が進み、後円部北東側に水路が造られるなど、後世の開発が深く及んでいます。このため本来の姿がかなり損なわれているようですが、かつては全長八十五メートルほど、幅は後円部が四十五メートル、前方部が五十メートルほどだったと考えられます。

なお、後円部の墳丘上は平坦にならされて社殿が築かれ、前方部上にも開墾によると思われる広い平坦面が見られます。大規模な周溝があってもおかしくはない古墳なのですが、現状では明確な周溝は確認できていません。遺体を収めるための「石室」は前方部・後円部に二つあります。前方部の石室



▲庄屋塚古墳出土遺物の実測図



▲前方部石室の実測図

は昭和三十九年(一九六四)に調査が行われ、全長六・三メートル、複室構造の横穴式石室で、玄室は長さ二・四メートル、幅一・八メートル、高さ二メートルの規模ということが確認されました。後円部のほうは、戦中に南東部を防空壕設置のため掘削したところ石材が確認され、存在は確かなものの詳細までは不明です。

庄屋塚古墳の墳丘規模は、荊田町にある四世紀前半の石塚山古墳(全長約百三十三メートル)、五世紀後半の御所山古墳(全長約百十九メートル)に次ぐ北豊前第三位のもので、六世紀中頃の古墳としては、福岡県下最大級の規模を誇ります。

これらの様相から、この古墳に葬られた人物はのちの橋塚古墳(六世紀後半)・綾塚古墳(七世紀初頭)の築造者に連なる、この地域のトップに立つ「首長」クラスの人物であると言えます。現在、古墳のそばに駐車場が整備され、見学がしやすくなっています。近くにお越しの際は、ぜひ一度、墳丘の頂きに足を運んで、頂上からの「古ぶりの眺め」を堪能されてみてはいかがでしょうかでしょう。